



校長室の窓

ちいさ ほごしゃ かた みまも ささ

地域や保護者の方に見守り、支えていただいています

私は、松陰神社から道の駅「ハピネスふくえ」へ向かう県道を通って学校に通っています。毎朝、赤坂団地の入口からハピネスふくえの手前の交差点までの間に、数名の地域の方が蛍光色のベストを着て立っておられます。また、交差点や郵便局を過ぎたところの時計付の学校の表札のあたりには、福井駐在所の所長さんが立っておられます。私は、車の運転席の窓を開けて、地域の方や所長さんに「おはようございま〜す」とあいさつをして通り過ぎます。それが毎日の朝の日課です。地域の方や駐在所の所長さんは、福栄小中学校の児童生徒の皆さんの交通安全や児童生徒の皆さんを不審者等から守るために、毎朝見守り活動をしておられるのです。



毎週火曜日の朝には、読み聞かせのボランティアの方が、小学校ホールで読み聞かせをしてくださいます。ボランティアの方は、地域の方や保護者の方です。ボランティアの方は、ご自分のお薦めの本を皆さんに心を込めて読んで聞かせてくださっています。

学校祭や福栄ふるさとまつりで、観客の皆さんから大きな拍手をいただいた大板山たたら太鼓。限られた時間の中で一生懸命練習してきた高学年児童や中学生の皆さんの頑張りがあったのはもちろんのことですが、大変忙しい中、時間を割いて皆さんの練習を指導してくださった大板山たたら太鼓保存会の皆さんの存在を忘れてはなりません。

また、毎週火曜日の午前中には、地域の方や保護者の方からなる「花の会」の皆さんがそれぞれのお宅から花を持ち寄って、各教室の花瓶に花を生けてくださる活動を続けておられます。中学校棟のホールで活動されている様子を見たことのある人も多いはずですが、お陰様で、各教室をはじめ、学校のあちらこちらに季節の花が活けてあり、心が和みます。



今、4つの活動を取り上げましたが、福栄小中学校は、いろいろな面で地域や保護者の皆さんに支えていただいています。小学生が取り組んできた米作りもその代表です。福栄小中学校は、今年の4月から「コミュニティ・スクール」としての歩みを始めました。コミュニティ・スクールとは「地域とともにある学校」のことで、地域や保護者の皆さんが、学校づくりに知恵と力を発揮され、児童生徒の皆さんの活動を支えてくださいます。また、学校も地域のためになる活動に積極的に取り組んでいくことが求められるのが、コミュニティ・スクールです。

自分たちを支えてくださっている地域や保護者の方に、皆さんはどのように感謝を伝えたらよいのでしょうか？ 考えてみてください。そんな難しいことではないはずです。